

病院キャンパスの屋内避難場所について

令和元年6月 医系学部等事務部 策定

伊都キャンパス内の屋内避難所が策定されたことを受け、病院キャンパスにおいても基本的な考え方を次のように定める。実際の対応は、別紙「屋内避難場所の開放について（対応手順）」をもとに、九州大学災害対策本部や九州大学病院等と連携して実施する。

1. 想定する災害

- ・福岡地方にて、集中豪雨、大規模台風、大規模地震が発生した場合を想定。
- ・病院キャンパス内の建物に大きな被害がなく、屋内避難が最も安全と判断される場合を想定。

2. 想定する人数

教職員は執務室や研究室等が確保されているため、学生数を基準として算出する。

⇒病院キャンパス学生数（H30.11.1現在）：3,228人（学部2,103人、大学院1,125人）

※非正規生を含む。

⇒学部1年生は基本的に伊都キャンパスへ通学していること、大学院生は研究室等に所属し待機（避難）場所が確保されている者もいることを勘案し、病院キャンパスとして合計2,000人分の屋内避難場所を確保することを目安とする。

3. 屋内避難場所を開放する期間

- ・災害規模にもよるが、帰宅困難者の受入は一時的なものであることを勘案し、ここでは、災害発生から最大3日間程度の期間を目安とする。
※延長が必要な場合、対策本部（未設置時は施設管理部局の部局長等）が判断する。
- ・長期の避難が必要な者には行政等が提供する避難場所へ繋ぎ、速やかに施設本来の用途回復を目指す。

4. 周知方法

- ・学生への周知は、学生ポータル（学務課）、館内放送（建物管理部署）、安否確認システム（総務課）、部局ホームページ（総務課および各部局担当教職員）を活用する。

5. 設備等

- ・自家発電装置の設置は、対策本部を設置する建物（医系管理棟）を基本として行う。
※全ての屋内避難場所に自家発電装置、備蓄品等を設置・供給することは、現状困難であり、実際に災害が発生した場合は対応可能な場所から優先して対応する。

6. 運営体制

- ・避難所運営ガイドライン（内閣府 平成28年4月）によれば「原則的には、被災者自らが行動し、助け合いながら避難所を運営する」とある。災害発生時には、対策本部を中心として必要な支援を行いながら、避難者も含めて自主的な運営を目指す。

※本内容は「事務情報掲示板」で常時公開。また「医系部局災害対策マニュアル」へ追記予定。

記載事項以外の対応については、「医系部局災害対策マニュアル」の内容を参照すること。

1. 災害対策本部が設置された場合

※「医系部局災害対策マニュアル」により、対策本部は【**医系管理棟 1 階会議室 1**】に設置（建物の倒壊等により危険な場合は、歯学部会議室に設置）する。

（1）建物の安全確認

- ・災害等により帰宅困難者が発生し、屋内避難を行った方が良いと判断された場合、財務課は屋内避難場所として指定した施設が使用可能かどうかを確認する。

（2）帰宅困難者数の確認

- ・総務課および学務課を中心とし、病院キャンパス内に留まっている学生、教職員、来学者等のうち帰宅困難となった者の概数を把握し、対策本部へ報告する。

（3）開放の判断

- ・対策本部は、災害、天候、屋内避難場所、帰宅困難者数の状況を総合的に勘案し、屋内避難場所の開放を行うかどうか判断する。開放に急を要する場合、財務課の判断で開放できることとする（開放した後、対策本部へ報告を行う）。
- ・屋内避難場所の運営に当たる職員は、災害規模・避難者数に応じて対策本部が判断する。

（4）開放・誘導

- ・対策本部は、開放する屋内避難場所を決定し、財務課へ連絡する。
- ・財務課は屋内避難場所を開放する。他の課は、避難者を屋内避難場所へ誘導する。
- ・屋内避難場所の情報を、想定した方法を用いて周知する。

（5）運営開始

- ・屋内避難場所の運営に当たる職員は、避難者も含めた自主的な運営ができるよう主導する。

（6）規模の縮小・閉所

- ・行政等による避難場所が設置された場合は当該場所への移動、帰宅可能となった避難者には退所を促していき、施設本来の用途回復を目指す。
- ・対策本部は、避難者の状況に応じて段階的に屋内避難場所の規模縮小を行う。
- ・対策本部は、全ての避難者が退所できたことを確認した後、閉所を行う。

2. 災害対策本部が設置されていない場合

- （1）対策本部が設置されていない場合であっても、災害、帰宅困難者の状況に応じて屋内避難場所を開放し、学生等の安全を確保する。実際の対応は上記「1.」を踏まえて実施する。
- （2）屋内避難所の開放を決定した場合、事務局関係部課とも随時、情報共有を行う。

屋内避難場所一覧（病院キャンパス）

令和元年6月現在

開放 順位	建物名	階	室名	面積（㎡）	収容人数	備考		
						可動式 机椅子	カーペッ ト床	その他
1	医学部百年講堂	1	中ホール1・2	285	125	○	○	
		1	中ホール3	143	63	○	○	
		1	大ホール	456	200	×	○	多目的トイレ有り
		1	大ホール（ステージ）	211	92	-	×	
		1	交流ホール（ロビー）	793	347	-	○	
		2	会議室1	58	25	○	○	
		2	会議室2	58	25	○	○	
		2	会議室3	58	25	○	○	
2	体育館	1	武道場	408	179	-	×	空調無し
		1	トレーニング場・卓球場	395	173	-	×	空調無し
		2	メインフロア（体育室）	1,002	438	-	×	空調無し
3	基礎研究A棟	1	第1講義室	193	84	×	×	
		1	第2講義室	193	84	×	×	
		1	食堂	720	315	○	×	
合計				4,973	2,176			

【開放順位の考え方】

- ・避難者の状況が一度に把握し易く、また、物資供給等の対応もし易い、医学部百年講堂をまずは開放する。医学部百年講堂でスペースが不足する場合、第2位以降の施設を順次開放する。
- ・備考欄の記載内容（空調設備、机・椅子が可動式であるか否か等）も勘案し、開放順は柔軟に決定する。

【収容人数の算定方法】

面積 × 有効率（70%） ÷ 1人当たりの必要面積（1.6㎡）

【備考】

- ・自家発電施設：災害対策本部を置く「医系管理棟」にのみ設置済み。
- ・災害用簡易トイレ（排水不可）：伊都の備蓄倉庫に保管（100回分 × 80個）。
- ・車いす等の障害者は百年講堂へ誘導する（バリアフリー、1階多目的トイレ有り）。

屋内避難場所マップ（病院キャンパス）

2019年6月現在

